

経済学研究科経済学専攻

〔教員養成の目標〕

経済学研究科経済学専攻では、経済学の基本となる理論、歴史、政策分野から経済の激しい変化にも対応できる応用経済学分野及び租税法・会計学分野まで、幅広い研究領域から経済について体系的に学修し、経済学的思考法を駆使して、自立して社会の諸問題を解決する能力を持つ教員の育成を目指している。具体的な教員養成の目標は以下の通りである。

1. 既存理論・研究を理化し、独自の視点で分析考察できる能力を持つ教員。
2. 専門分野における新しい知見を理解し、伝える能力を持つ教員。
3. 世のため、人のために尽くす公德心を有し、学界の最新の成果の摂取に努め、修得した知見を広く社会に還元する意思と能力を持つ教員。
4. 歴史や文化を尊重し、多様な価値観を認める包容力を持ち、日本と世界が抱える複雑な経済問題の解決に取り組む意欲を持つ教員。

〔当該目標を達成するための計画〕

上記の教員養成の目標を実現するために、以下の計画を実施する。

経済学研究科経済学専攻では、時代とともに学問体系の充実を図り、経済学の基本となる理論・歴史・政策分野及び実社会の激しい変化にも対応できる専門研究領域をカバーする応用経済学分野から、租税法・会計学の関連分野まで、幅広い研究領域に科目を配置し、経済学を基礎から応用まで体系的に学ぶことができるようにカリキュラムを設計している。

なお、将来の進路やキャリアに繋がる学びができるように、「研究コース」、「特定課題研究コース」、「租税法・会計コース」を設置し、さらに、「経済学」という学問が理解しやすいように、研究領域を「経済理論研究」、「経済史・思想史研究」、「国際・地域研究」、「応用経済研究」、「租税法・会計研究」に分けて科目配置を行った。

また、社会人のキャリア支援を目的に、社会人選考を導入し、平日の夜間と土曜日だけの履修でも必要単位が取得できるようにカリキュラムの編成を行った。